

講座タイトル：人生 100 年！ 変えやな 変わらな

～生き方、人とのつながり、経済と社会保障、健康長寿、地域づくり～

グループ・団体名：一般社団法人 100 歳大学 市民大学企画グループ

講座概要：現在、超少子高齢社会が引き起こしつつある切迫した厳しい事態に、市民レベルの理解が進んでいないため、市民が主体として切り開く希望に満ちた未来がなかなか見えてこない状況です。そこでこのコースでは、「変えやな」と同時に「変わらな」を合言葉に、各回の講演から学び取ると同時に、随時グループ討議を重ね、ブレインストーミングによってアイデアを出し、講座参加市民が協力し合って未来を創る力を養います。

回数、定員、受講料：7 回（9 月 13 日～11 月 29 日の土・日曜日予定）、50 名、3000 円

時刻、場所：13:30～15:30、三浜文化会館視聴覚室（学生：1500 円）

<各回の内容>

1. 逃げ切り世代・逃げ切れ世代が今やるべきことは何か？ [9 月 13 日(日)]

栗屋かよ子（元四日市大学教授、理学博士）

現在日本の少子・超高齢化社会がもたらす危機的状況について検討します。そして、高齢者は「逃げ切り世代」と言われているが、本当に逃げ切れるのか？ また、若者・壮年は「逃げ切れ世代」と言われているが、その未来はどうなるのか？ 今こそ世代を超え心をひとつにして、この難関に立ち向かえば、見えなかった未来が見えてくるのではないかと呼びかけることによって、このコースの導入とします。

2. 日本の社会保障制度の何が問題か [9 月 20 日(日)]

李修二（四日市大学特任教授）

まずは年金制度の原理や、諸外国での事例をもとにした国際比較などを通じて検討し、現在の日本の年金制度の特徴を理解します。それをもとに、日本の社会保障制度全般に通じる問題点をおさえ、特に若年層や中年層が高齢化するに従って今後どのような方向性で改革していくべきなのか等を各世代の皆で考えます。

3. 人生 100 年時代をミトコンドリアの活性化で「生き切る」 [10 月 17 日(土)]

柳田祥三（大阪大学名誉教授・同先端科学イノベーションセンター特任教授）

「芸術家は仕事を辞めない。心身が健康な献身的科学者も然り」。これは神経細胞機能とミトコンドリアが生産する分子に関する研究で有名な 92 歳の神経科学者の言葉です。

老化を抑制し、「気力・知力・体力」を維持するために必須である、体内細胞のエネルギー源のミトコンドリアの活性化について紹介します。健康な100年人生を目指すにあたり、細胞レベルの知識を得て、自らの心身についてのベーシックな視点を養います。

4. 女と男のルネッサンス～女と男の関わり方はどう変わる～ [10月25日(日)]

高野史枝 (映画監督・映画評論家)

氏は、編集者、映画評論家、そして『厨房男子』や『おっさんずルネッサンス』(愛知県大府市-前回の市民大学で初回講座を担当した大島伸一氏が初代総長「国立長寿医療センターの所在地でもある-が舞台のセカンドライフの取り組み)などのドキュメンタリー映画の監督として長年にわたり「食」をテーマにしつつ女と男の関わり方を問い続けてきた。人生100年時代の到来という状況で、男女共同参画の在り方がどう変わってゆくのか、どう変わってゆくべきかについて考えます。

5. 地域・住民のとりくみ [11月15日(日)]

① さろん de 志氏我野のとりくみ

羽津地区まちづくり推進協議会

「さろん de 志氏我野」は四日市市羽津地区の志氏我野神社境内の古民家を利用した、赤ちゃんからお年寄りまでの全世代を対象にした交流サロンです。

② 「変えやな！」 認知症のイメージ

佐野佑樹 (認定作業療法士、寄合所「くじら」の管理者)

「くじら」は鈴鹿市長太で古民家を利用した地域密着型ディサービスで、認知症の人の声や視点で、まち全体をアップデートしようとする試みです。

前者は世代間交流の活動、後者はフレンドリー社会を目指した活動と、それぞれユニークな試みをしている。両者の立ち上げの経緯や取り組み内容を聞き、新しい地域づくりやまちづくりをどう進めたらよいか、考えます。

6. ワークショップ「変えやな、変わらな」 [11月22日(日)]

木下弓子 (ファシリテーターとして:100歳大学副理事)

5回までの講演とグループ討論を踏まえて、グループ討議をさらに深めます。

「何をどう変えたら良いのか」

「その中で、自分はどう変わるのか」

を自由に出しあい、そこから見えてくる未来社会を探ってゆきます。

7. プレゼンテーション「変えやな、変わらな」 [11月29日(日)]

中田悌夫 (ファシリテーターとして:100歳大学代表理事)

前半はグループ毎の討論をまとめ、発表の準備をします。

後半はグループ毎の発表をし、成果を共有します。